

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 21 日現在

機関番号：32689

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26884064

研究課題名(和文) 移民により再生産される越境的パンジャブ文化とその多様性

研究課題名(英文) Cultural re-creation of transborder Punjabi migrants

研究代表者

東 聖子 (AZUMA, Masako)

早稲田大学・人間科学学術院・助手

研究者番号：00735102

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：インド亜大陸北西部に位置するインド領パンジャブおよびパキスタン領パンジャブから、カナダ・トロント市周辺へ移住した人々の生活やパンジャブ移民同士の関係について調査を実施した。

本研究を通して、インド・パキスタン移民の中でも文化的近似性の強いインド出身パンジャブ移民とパキスタン出身パンジャブ移民が、出身地ではほぼ不可能である相互交流をもち、分断されている現在のパンジャブ地方を越境的に捉え直す実践がなされていることが明らかになった。移民が発信する越境的パンジャブの姿は、国境線による領土範囲に基づき文化的差異を認識させる国民国家の枠に留まらない文化の越境性を示しているといえる。

研究成果の概要(英文)：This research was held in the Greater Toronto Area, Canada to study migrants from Punjab region, India and Pakistan, the north west of Indian subcontinent. Participant observations and interviews were conducted in at activities of the migrants and gatherings to find how they meet and build relation each other beyond consciousness of "enemy", which has been created by India-Pakistan border since the partition, 1947. Through this research, it was seen that Punjabi migrants have social and cultural practices to re-create image of transborder Punjab, which is not culturally or socially divided by the nation-state's border.

研究分野：文化人類学

キーワード：Punjab Migration India/Pakistan Transborder

1. 研究開始当初の背景

これまでの調査においてはインドと日本をおもな調査フィールドとしていたため、本研究を開始するにあたり、あらたなフィールド調査地を定める必要があった。研究計画のとおり、カナダのパンジャブ移民コミュニティに関する研究を実施することに加え、当面の調査継続可能性を念頭におきながら、調査地を選定するところからはじまった。

まず、これまでの研究で培ったネットワークをもとに、カナダにおいてパンジャブ移民が多いとされるプリティッシュ・コロンビア州ヴァンクーバーとオンタリオ州トロントにて予備調査を実施した。その結果、インド出身のパンジャブ移民とともにパキスタン出身のパンジャブ移民が多く住むトロント近郊をおもな調査地とすることとし、本研究を開始した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、インド亜大陸北西部に位置するパンジャブ地方からの移民が、多様な宗教を包摂するパンジャブの文化・社会的慣習を再興しうる可能性を探ることである。

15世紀以降のパンジャブ地方では、イスラーム教徒、ヒンドゥー教徒、シク教徒が文化・社会的基盤を共有し、ともに社会を形成する成員として存在していた。19世紀中頃にイギリス植民地として併合され、キリスト教や西欧近代思想の影響を受けつつも、人々の生活には多様な宗教に属する人々との日常的なつながりがあった。

しかしながら20世紀の反英独立闘争にともない各宗教間や宗派間の対立が助長される事態となった。さらに1947年のインド・パキスタン分離独立により、パンジャブ地方を分断するかたちで国境線が引かれ、インド領側に住んでいたイスラーム教徒がパキスタン領側へ、パキスタン領側に住んでいたヒンドゥー教徒とシク教徒がインド領側へと移動することとなった。その際には宗教間相互で襲撃や殺戮がみられ、大量の犠牲者を出した。分離独立に続き度重ねられたインド・パキスタン戦争においても、国境周辺のパンジャブは戦場となり、インド側パンジャブでは「パキスタン=イスラーム=敵」というイメージが醸成され、定着するに至った。パンジャブに敷かれた国境を跨いで人々が日常的に交流する姿は現在でも見ることはできない。

一方、インド側・パキスタン側双方のパンジャブは海外への移民を多く輩出しており、移住先において国境の向こう側のパンジャブの人々と「再会」することは珍しくない。職場や学校、商店、レストランなどでは、出身地では「敵」であった人々が隣人となって同じ空間にいる。

移住前には交流が断絶していたが、同様の文化・社会的背景をもつ人々が移住先で「再開」し、同じ空間で生活世界を共有したとき、かれらの文化はどのように展開していくのだろうか。国境線により分断される前のパンジャブにみられたような、多様な宗教を包摂するパンジャブ文化は再興されるのだろうか。本研究の目的は、このような背景をもつパンジャブ文化が、人の移住をとおして再興されうる可能性を探ることにある。

3. 研究の方法

本研究では、おもにカナダ・トロント市近郊でのフィールドワークや聞き取り調査をおこない、まず同地のパンジャブ移民がどのような生活を営んでいるのかを理解することを試みた。具体的には、パンジャブ移民を含む南アジア系移民を対象とした移住支援サービスを提供する組織、ヒンドゥー寺院、イスラーム寺院、シク寺院、地域コミュニティ・センターに赴き、それぞれの実施プログラムやスケジュール、参加者層などについて調べた。そのほかにも、日常生活でパンジャブ移民が訪れる場所がどのような場所であるのかを調べるため、集住地域付近のショッピングセンターや料理店、コーヒーショップなどの様子を観察した。

一方、カナダの南アジア系移民およびパンジャブ移民のコミュニティ概要、問題や対策などについては、文献資料をもとに調査をおこなった。トロント大学図書館には、トロント近郊に焦点を絞った南アジア系移民研究およびパンジャブ移民研究資料が所蔵されており、トロントでのフィールド調査の際には同図書館での資料調査も実施した。

4. 研究成果

先行研究概要の把握

文献調査より、カナダの南アジア系移民およびパンジャブ移民についての先行研究の傾向が明らかとなった。これらのテーマについての先行研究では、1)19世紀後半から20世紀初頭の初期の移民を扱ったもの、2)移民子弟の言語など教育問題を扱ったもの、3)ジェンダーや高齢者ケア、医療などコミュニティの抱える社会問題をとりあげたもの、などが多くみられることが分かった。また、南アジア系移民のなかでもインド亜大陸北西部に出自をもつパンジャブ移民と南部出身のタミル移民を比較した研究、南アジア系移民と東欧や東アジアなど出身の移民コミュニティとを比較したものがあった。

パンジャブ移民をシク教移民と同義としてその呼称を用いている研究も少なく、パンジャブの宗教多様性、インド・パキスタン分離独立にともない2つに分断された両国それぞれにパンジャブが存在することなどは、考慮どころか言及されずに、

パンジャープ=インドからのスィク教移民としている研究も散見された。

南アジア系移民およびパンジャープ移民の教育や社会問題がとりあげられる一方、生活文化やその実践について着目した人類学的な文化研究があまりないことも明らかになった。

カナダ・オンタリオ州およびパンジャープ移民概要の把握

カナダにおいては、ブリティッシュ・コロンビア州ヴァンクーバー近郊とオンタリオ州トロント近郊にパンジャープ移民が多いことは知られていたが、2011年のカナダ国勢調査結果より、オンタリオ州トロント近郊においては、パキスタンとインド双方からの移民数が顕著に増加していることを確認した。

移民支援組織関係者への聞き取りや、各宗教施設についての調査からは、グレーター・トロント・エリアとよばれるトロント近郊地区のなかでも、とくにミシサウガとブランプトン地区で南アジア系とくにパンジャープ移民の増加が顕著であることが明らかになった。

パンジャープ移民の多い地区において、パキスタンかインドかという出身国別または宗教別の集住地区などは見当たらなかった。学校や商店、職場など日常生活の場において、宗教および出身国の異なるパンジャープ移民同士が隣人となり暮らしていることが確認出来た。パキスタンおよびインド出身のパンジャープ移民には、食料をはじめとする日用品や衣類などは共通の需要があることに加え、パンジャープ語、ヒンディー語およびウルドゥー語の音声メディアが共有されていることを確認した。

トロント郊外におけるパンジャープ移民の生活および文化実践とパンジャープ文化の展開について

移民支援組織による各種プログラムでの参与観察からは、以下の点が明らかとなった。

1) 英語クラスが運営され、参加者はおもに女性であったが、エスニックを問わず同地区居住の移民を対象としたクラスであるため、ロシア、東欧、中東などさまざまな出自の人々とともにパンジャープ移民女性がクラスに参加していた。クラスへの参加をとおして、ほかのエスニックの人々とも交流をもつ機会を得ていたと同時に、インドかパキスタンかという出身地の差よりも「南アジア系移民/インド・パキスタン移民/パンジャープ」というような同胞意識をもつ機会ともなっていた。

また、言語習得プログラムのほか、女性向けの学習交流プログラムなどがあり、そちらでも英語クラスと同様の様子がみられた。つまり、ほかのエスニックの人々との交流から自身を相対化し、さらに南アジア出身者同士

の共通性を認識することから、出身国の違いを越えた「南アジア系移民/インド・パキスタン移民/パンジャープ」としてのアイデンティティを意識する姿がみられた。

2) パキスタン出身女性のソーシャル・ワーカーが、定住に関する各種コンサルティング・サービスを提供している様子を観察した。南アジア系移民担当のコンサルタントとして働く彼女のもとには、インドとパキスタン双方からの相談者が訪れていた。使用言語はウルドゥー語やパンジャープ語であり、相談者に行政手続等のアドバイスをしながらも、移住先カナダ社会において南アジア系移民が遭遇するさまざまな問題やそれらへの対応等についても、相談者と共有していた。自身も移住者として生きる彼女は、クライアントにとって南アジアの社会・文化的規範とカナダの違いをふまえた相談のできる頼れる存在である。彼女とクライアントの関係は、インドかパキスタンかという出身国の違いよりも同地の共通性を再認識させる物であると言える。

一方、地域コミュニティ・センターでのシニア・プログラムへの参与観察からは、インド・パキスタン出身者間の越境性を見出すのは難しかった。インド出身者間のエスニシティおよび言語、宗教の違いを越えたネットワークは見えてきたものの、インド・パキスタン両出身者の参加するシニア・プログラムを今回の調査では見つけることができなかった。シニア・グループは1940年代後半までに生まれた世代の集まりであったが、ネットワークの範囲が世代差によるものであるのか等の調査は、これからの課題となっている。

南アジア出身者のなかでもとくにパンジャープ男性の多くが従事しているのが運輸関連の仕事であることが確認出来た。タクシーやトラックの集まるスタンドや駐車場などでは、パンジャープ語の会話が飛び交っている。車内からはパンジャープ語のラジオ番組が聞こえる。ドライバーとして働くパンジャープ移民たちは、さまざまな情報を交換しながら、それぞれのカナダでの生活を送っており、ここには出身国や宗教を越えた紐帯がみられ、それはパンジャープ語という共通話語の存在が大きいと考えられる。

また、かつて国境のなかったパンジャープには、スーフィー聖者廟やスィク教寺院、ヒンドゥー教寺院などが各地に点在しているため、パキスタン側にあるヒンドゥーやスィクの聖地へ巡礼を希望する人々がいる。この巡礼ツアーを企画するカナダ在住のパンジャープ移民は、カナダ・インド・パキスタン各地でネットワークを広げ、事業を展開している。このような事業をとおして、また参加者は巡礼をとおして、聖地や寺院が各地に展開したかつてのパンジャープを想起し、追体験していることが分かった。

このように、本研究のこれまでの調査から、パンジャープ移民が移住先において、国境策

定以降醸成され続けた「敵/味方」という関係を抜け出し、あらたに越境的な交流を重ねていく可能性を見出すことができた。これがパンジャブ文化再興の萌芽となりうるのではないかと考える。カナダ・インド・パキスタンという3地点のパンジャブ社会の関係をふまえながら、今後この萌芽的状况がどのように展開していくのか注視していく必要がある。

5. 主な発表論文等 [雑誌論文 計2点]

Transborder Experiences of Punjabi

Migrants in the Greater Toronto Area

Masako AZUMA (査読なし)

Islam and Multiculturalism

pp.22-28, 2016年3月

「スィク教改革運動および反英独立運動期におけるスィク・アイデンティティの成り立ち」

東聖子 (査読なし)

『英領インドにおける諸宗教運動の再編ー
コロニアリズムと近代化の諸相』 pp.41-52,
2015年3月

[学会等発表]

Acculturation Among Punjabi Migrants in
the Greater Toronto Area

Masako AZUMA

2015 American Anthropological Association
annual meeting, 2015年11月 デンバー・
コンベンションセンター

Transborder Experiences of Punjabi

Migrants in Toronto [招待有り]

Masako AZUMA

International Conference on Islam in
Global Perspective, 2015年11月 ニューヨ
ーク大学アブダビ校

**移民によるパンジャブ文化の展開：カナダ
トロント市の事例より**

東聖子

日本南アジア学会第28回全国大会, 2015年
9月 東京大学駒場キャンパス

6. 研究組織

- (1) 研究代表者 東聖子 (AZUMA Masako)
早稲田大学人間科学学術・助手
研究者番号 : 00735102